

農村学習体験、生きる力!

人と接する温かさ、マナーの大切さ。農作業や会話から歴史と、現状を学び、今後の生き方に役立てる。自然の中で仲間と共に働き、遊ぶことで仲間意識を育て、お互いの義務を知る。農村の自然や農業を調査観察し、将来の「環境・食」への関心を高める。世の中は思い通りにいかないのが自然で、不揃いが当たり前であることと、自然の法則があり、それに反する不自然を見極める力を養成する。



進んでやるのは上の上
まねてするのは中の中
言われてするのは下の下なり

人生体験 見よう、調べよう 交流広場

ほっとステイ「入村心得」26ヶ条

信州せいしゅん村は、一般的な常態として、下記事項については、皆様方に「当たり前」に出来る人として交流しています。

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1条 朝のあいさつ、大きな声で「おはようございます。よろしくお願いたします」 | 11条 食べ物は、食べられる物だけに箸をつける。迷い箸、指し箸はいけない。 |
| 10条 食事の姿勢は両手で箸(はし)と碗(わん)を持って、正座して食べる。 | 26条 後付けけがキチンとできて、すべてが終わる。 |

信州は、多くの美しい山々や河川が「信濃の国」に歌われています。81の市町村それぞれに特色を持ち、独自の魅力があります。ハイテク産業はもちろん観光や農業においても、目を見張る取り組みがされております。小さくてもまばゆい輝きを持った風土や人々と触れ合うことで、本来人間が持つ感性や可能性を探る「ほっとステイ」を体験してください。人間にとって必要なことが見えてくるかもしれません。標高1,416m、高原の湖 白樺湖から1時間以内。そんなふるさとがあります。(ホテル 晴明荘 両角良久)

ほっとステイ

ホテル晴明荘企画

「信州思い出の里、日帰り農業・農村体験」

98家庭に、98通りの日常生活6時間を仲間と共に過ごす

企画・運営
信州せいしゅん村事務局

おらほ一の町へよれや〜

武石地区
真田地区
青木地区
長和地区
立科地区

信濃の国

一、信濃の国は 十州に
分れてゐる。国にして
信濃の山は いや高く
松本伊豆 佐久 諏訪
四つの山は 物さねに
海にそなはれ 事なき
二、四方に響ゆる 山々
は 信濃の 山々
三、信濃の 山々
は 信濃の 山々
四、信濃の 山々
は 信濃の 山々
五、信濃の 山々
は 信濃の 山々
六、信濃の 山々
は 信濃の 山々
七、信濃の 山々
は 信濃の 山々
八、信濃の 山々
は 信濃の 山々
九、信濃の 山々
は 信濃の 山々
十、信濃の 山々
は 信濃の 山々

98家庭に98通りの日帰り体験

1軒に5〜6人。日常の生活で6時間共に過ごす『ほっとステイ』

生きる力を探る旅!

今あるふるさとの姿

5地区に広がる、信州のふるさと。武石・長和・青木・真田・立科の各エリアの特性を生かした感動体験です。



目から鱗、農ある暮らし。

農村体感、農業体験

一度はやってみたい? 農ある暮らし。その日その日の暮らしを村の家庭と一緒にやって心身を癒します。季節により、日ごとにより、内容が変わります。



周辺散策〈水生生物観察〉

我を忘れて童心に戻る!

綺麗な水にホタルは棲まない! エッ何で!! 思い通りにいかないのが農業・自然。信州人は蜂の子を食べる。秋のトマトは美味しいので人にはあげない!...生物は子孫を残すため必死。トマトはなぜ赤い? 自然界は勝手に遺伝子組み替え?



カワゲラがいたよ。

里山歩きで在来種調査

未知の発見に心躍る

田舎の常識は都会の非常識! 自家用野菜は栽培法が違う? 信州そばは消費量の2%しかない。菜の花毎年咲くのは不自然。日本たんぼの群生地。とにかく里山歩きは楽しい。



日本たんぼ発見!

農村の家庭

雨の日、いえの中では...

日々の農家の暮らしを、人や自然とかかわりながら見聞きし、地域との交流、お年寄りの昔話を聞きながら過ごします。



ダンボール箱作り

見よう! 調べよう!

有機栽培畑で観察・収穫

日本の農業の課題と今後。有機栽培って何? 自分にとって農業とは。優しい自然と厳しい自然、高齢化の現状とこれからの農業、自然の法則と不自然の違い。慣行農法とこだわり農法...



ネズミ大根知っていますか?

教わろう・話そう

- 戦争と平和、戦後 ●野菜栽培管理作業 ●自然の中での遊び
- 農村で生きる楽しさ ●方言の使い方と意味
- 若いころの仕事、楽しみ ●生活の知恵と礼儀作法
- 収穫の喜びと自慢話 ●農作業の四季と栽培の秘訣
- 自給自足、自給率と豊かさ

楽しい会話が弾みます。

雨の日は「農休み」伝えたい事が山程あります!

〈お茶飲みしながら〉●てすくな仕事(わら細工、ツル細工、折り紙等の手仕事)、田舎料理、おやき・おはぎ作り、そば打ち、俳句・短歌作り、温泉、子ども時代からの出来事を聞く、テーマを決めて話し合い



先生方は地図を見て家庭訪問

思い出をいっぱい手にして

見よう・調べよう

- 〈必修テーマ：日本農業の課題と今後、265項目の提供学習テーマ〉
- 昔の暮らしと、今の暮らし ●優しい自然と厳しい自然
 - 高齢化の現状とこれから ●環境、福祉、医療、交通
 - 自然の法則と不自然の違い ●慣行農法とこだわり農法
 - 村の歴史、伝統、地区行事 ●動植物の生態=鳥、魚、昆虫、草
 - 生物の環境指標と在来、帰化種

受け入れ方法

- 人数：5人か6人のグループ
テーマ：265のテーマがあります。
料 金：朝9:30〜午後3:30 1人 3,150円
所定より短時間の体験であっても料金は同一です。

時間割と内容

- | | |
|-------------|-----------------|
| 9:30〜10:00 | バスで各家庭へ、顔合わせお茶 |
| 10:00〜12:00 | 普段通りの暮らし方体験 |
| 12:00〜13:00 | 昼食(お昼は持参してください) |
| 13:00〜15:00 | 普段通りの暮らし方体験 |
| 15:00〜15:30 | お茶、反省会 |
| 15:30〜 | バスに乗り込み、駐車場へ |



「信州せいしゅん村 小林さんのメッセージ」
自然に接して
「お金では買えない素晴らしい自然」と言われますが、その自然を人はこの頃「美しい」「美しい」という魅力だけで評価します。しかし、古来より人は自然を偉大なものだと「畏敬の念」を持って接して来ているのです。自然を相手にして、人間が生活の中で自分たちの食物を得るには、今も昔も不安定で非常に怖いものがあります。自然は気まぐれで、生物全体に対して優しく接してくれただけでなく、農業も高温・低温・干ばつ・豪雨との戦いでした。収穫は運任せ、神任せ、お天道さま任せなのです。
「努力した上では、努力の結果は自然に任せるのだ」とし、「思うようにならないのが当たり前。だから諦める」としましう。こうすれば誰もがもっと自然や人にもっと優しく接することが出来るでしょう。